

中国の文化Ⅸ 第11回

五代十国時代

書籍出版のはじまりと詞の隆盛

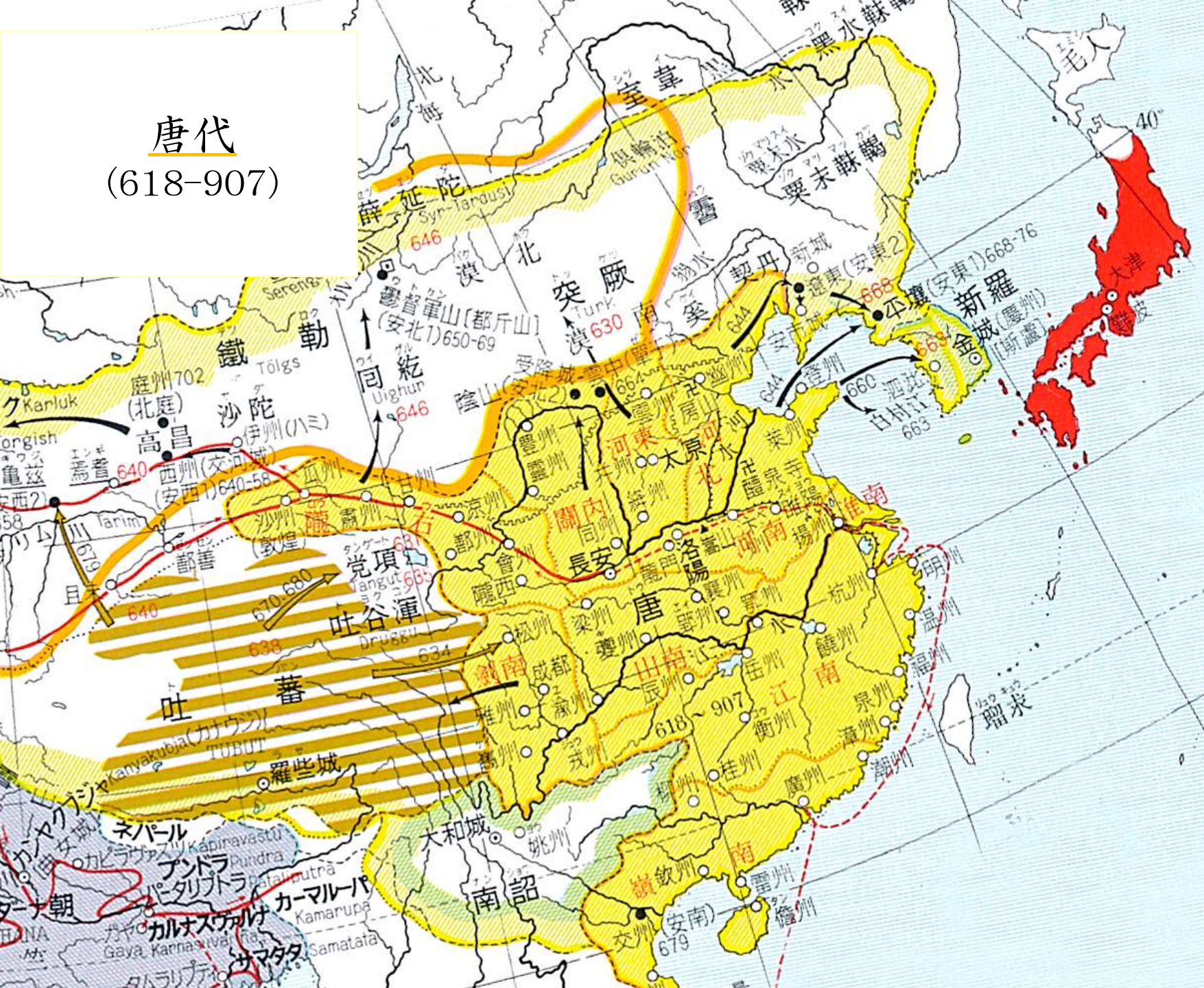
如是我聞一時佛在舍衛國祇樹給孤獨園與大比丘衆千二百五十人俱尔時世尊食時著衣持鉢入舍衛大城乞食於其城中次第乞已還至本處飯食訖收衣鉢洗足已敷座而坐時長老須菩提在大衆中即從坐起偏袒右肩右膝著地合掌恭敬而白佛言世尊如來若何說此諸法

凡欲讀經先淨口業
循唎
奉請除災
奉請白濁金剛
奉請紫賢金剛
金剛般若波羅蜜經
奉請大荼金剛
奉請大除金剛
奉請大神金剛
摩訶
循唎
娑婆訶



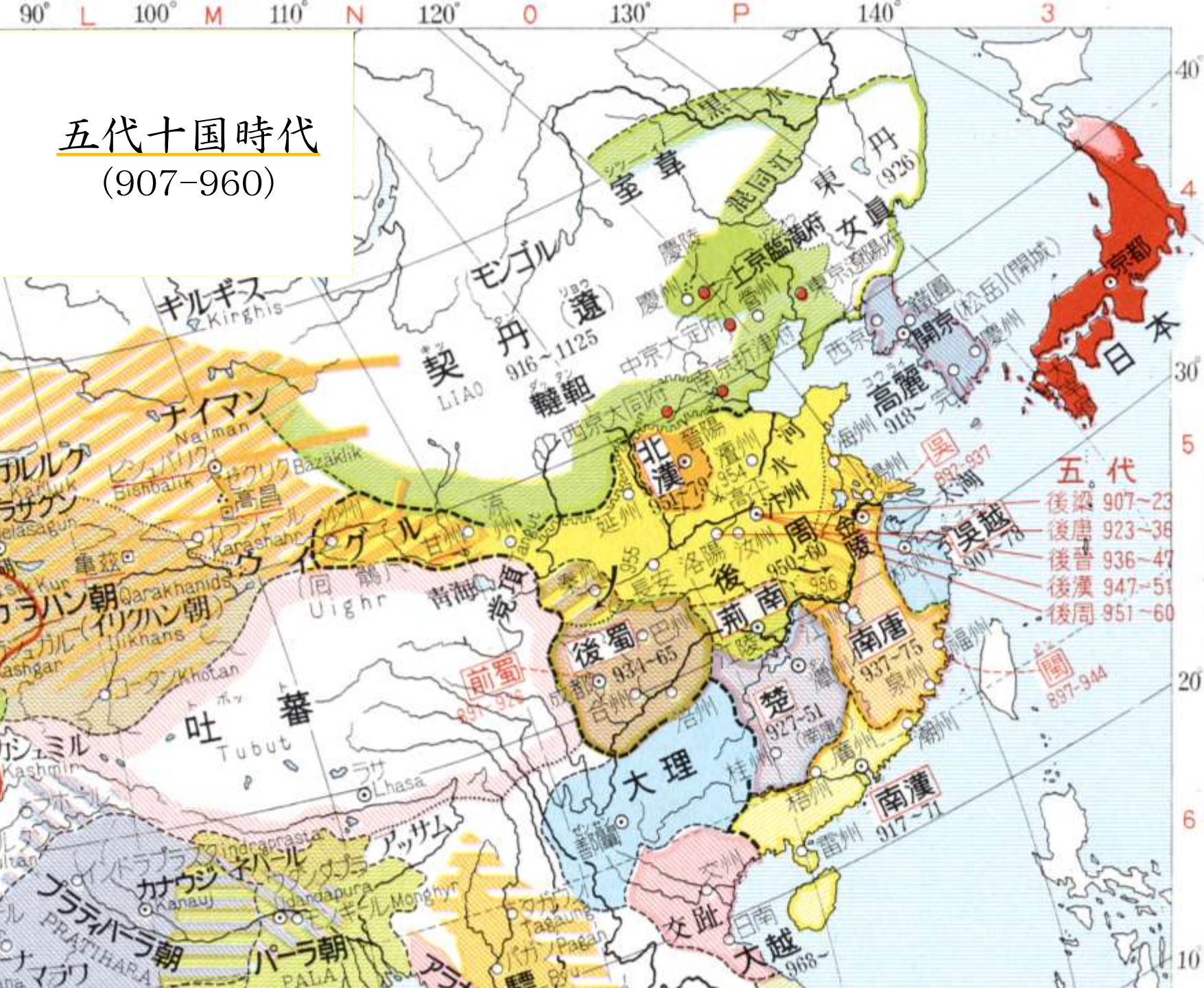
1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

| | | |
|--------------------|--------------|------------|
| 殷 1600BC頃-1046BC | | |
| 周 1046BC-771BC | | |
| 春秋戦国時代 770BC-221BC | | |
| 秦 221BC-207BC | | |
| 漢 206BC-220AD | | |
| 魏 220-265 | 蜀 221-263 | 吳 222-280 |
| 五胡十六国時代 | | 東晋 317-420 |
| 北朝 439-589 | | 南朝 420-589 |
| 隋 581-619 | | |
| 唐 618-907 | | |
| 五代十国 907-960 | | |
| 遼 | 北宋 960-1127 | |
| 金 1115-1234 | 南宋 1127-1279 | |
| 元 1271-1368 | | |
| 明 1368-1644 | | |
| 清 1616-1912 | | |
| 中华民国 1912-1949 | | |
| 中華人民共和国 1949- | | |



1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

| | | |
|--------------------|--------------|------------|
| 殷 1600BC頃-1046BC | | |
| 周 1046BC-771BC | | |
| 春秋戦国時代 770BC-221BC | | |
| 秦 221BC-207BC | | |
| 漢 206BC-220AD | | |
| 魏 220-265 | 蜀 221-263 | 呉 222-280 |
| 五胡十六国時代 | | 東晋 317-420 |
| 北朝 439-589 | | 南朝 420-589 |
| 隋 581-619 | | |
| 唐 618-907 | | |
| 五代十国 907-960 | | |
| 遼 | 北宋 960-1127 | |
| 金 1115-1234 | 南宋 1127-1279 | |
| 元 1271-1368 | | |
| 明 1368-1644 | | |
| 清 1616-1912 | | |
| 中华民国 1912-1949 | | |
| 中华人民共和国 1949- | | |



出版のはじまりと詞の隆盛

唐末から五代十国時代にかけて、中国は武人支配の時代を迎える。


武人の台頭により門閥貴族が没落すると、これに代わって新たな政治の担い手となったのが、科挙出身の文人官僚たちであった。

彼らは、科挙を通じて身分や家柄に関係ない平等な社会を築くため、唐末に民間で発達した印刷技術を使って知識の普及に努めた。書籍出版のはじまりである。

身分制度なき柔構造の封建社会の誕生とともに、文学の世界でも格式ばった詩に代わり、庶民の間に生まれた詞が人々の心をとらえた。

講義内容

- 第一節 五代十国時代
～武人支配の時代
- 第二節 出版のはじまり
～写本の時代から刊本の時代へ
- 第三節 詩から詞へ
～南唐の後主・李煜の生涯とその詞



第一節

五代十国時代

武人支配の時代

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 蜀 221-263 吳 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代 東晋 317-420

北朝 439-589 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 北宋 960-1127

金 1115-1234 南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

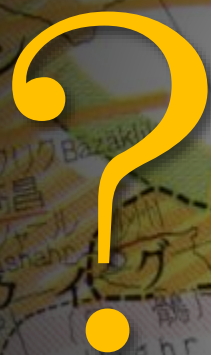
清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

五代十国時代
(907-960)

中国が五代十国時代だったころ、日本は何時代？



中国大陸



朝鮮半島



日本列島



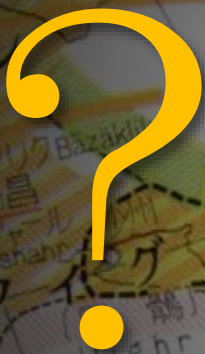
1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

| | | |
|--------------------|--------------|------------|
| 殷 1600BC頃-1046BC | | |
| 周 1046BC-771BC | | |
| 春秋戦国時代 770BC-221BC | | |
| 秦 221BC-207BC | | |
| 漢 206BC-220AD | | |
| 魏 220-265 | 蜀 221-263 | 呉 222-280 |
| 五胡十六国時代 | | 東晋 317-420 |
| 北朝 439-589 | | 南朝 420-589 |
| 隋 581-619 | | |
| 唐 618-907 | | |
| 五代十国 907-960 | | |
| 遼 | 北宋 960-1127 | |
| 金 1115-1234 | 南宋 1127-1279 | |
| 元 1271-1368 | | |
| 明 1368-1644 | | |
| 清 1616-1912 | | |
| 中華民国 1912-1949 | | |
| 中華人民共和国 1949- | | |



五代十国時代
(907-960)

なぜ「五代十国時代」と呼ばれるのか?



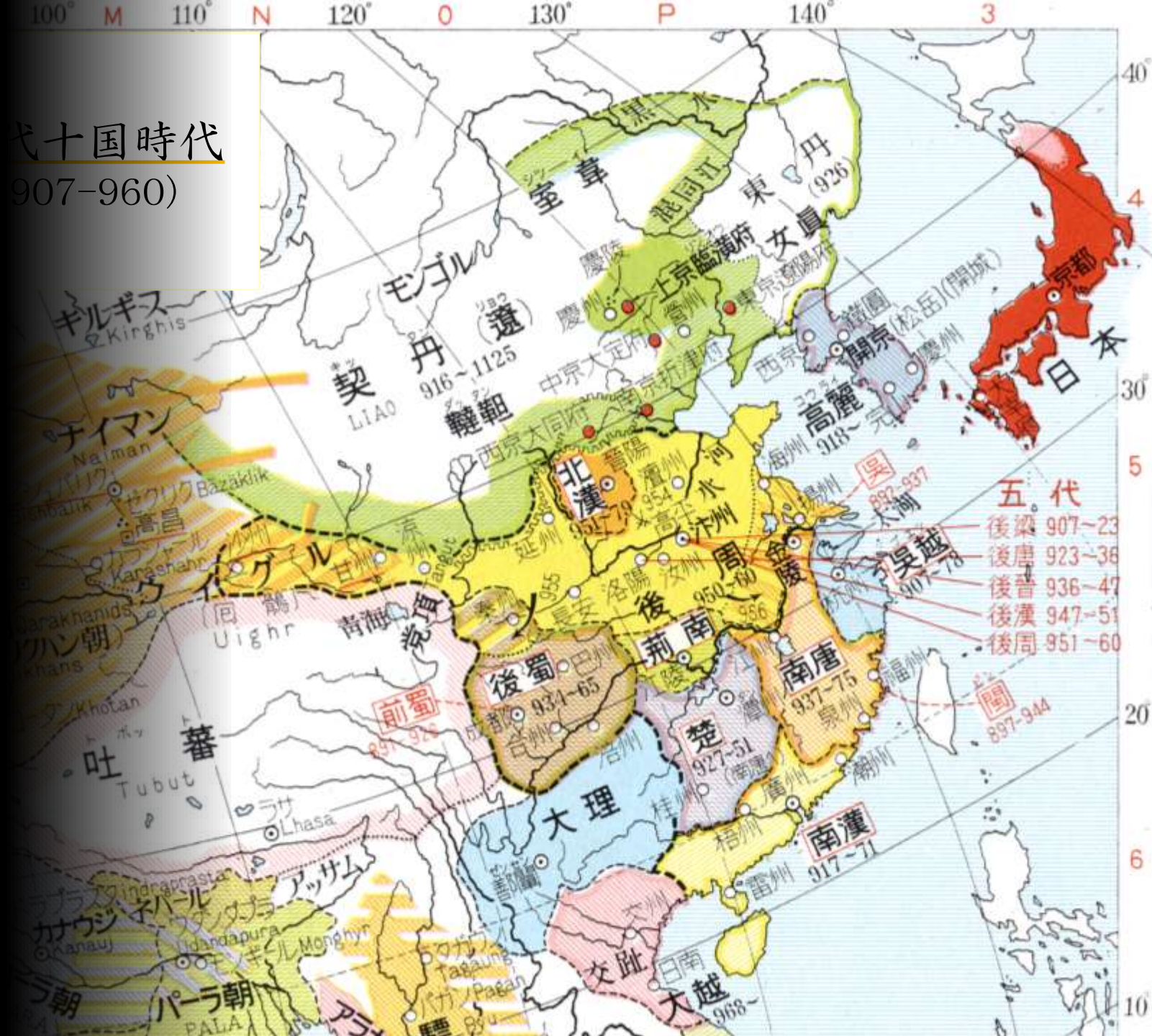
五代
後梁 907-23
後唐 923-36
後晋 936-47
後漢 947-51
後周 951-60

五代十国時代
(907-960)

五代十国とは？

「五代」とは、中原に興亡を繰り返した五つの王朝を指す。

これらの王朝はいずれも短命で、地方には支配が及ばなかったため、前後して十の地方政権が誕生した。これらを「十国」と呼ぶ(図中の□)。



1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

| | | |
|--------------------|--------------|------------|
| 殷 1600BC頃-1046BC | | |
| 周 1046BC-771BC | | |
| 春秋戦国時代 770BC-221BC | | |
| 秦 221BC-207BC | | |
| 漢 206BC-220AD | | |
| 魏 220-265 | 蜀 221-263 | 呉 222-280 |
| 晋 265-316 | | |
| 五胡十六国時代 | | 東晋 317-420 |
| 北朝 439-589 | | 南朝 420-589 |
| 隋 581-619 | | |
| 唐 618-907 | | |
| 五代十国 907-960 | | |
| 遼 | 北宋 960-1127 | |
| 金 1115-1234 | 南宋 1127-1279 | |
| 元 1271-1368 | | |
| 明 1368-1644 | | |
| 清 1616-1912 | | |
| 中華民国 1912-1949 | | |
| 中華人民共和國 1949- | | |



五代十国時代
(907-960)

「唐宋変革期」

唐代以前—門閥貴族が政治の実権を握る

五代十国時代—武人の台頭により門閥貴族が没落

宋代以降—文人官僚に支えられた皇帝の
独裁体制が確立

中国大陸

朝鮮半島

日本列島

東アジアの武人支配




およそ七百年に及ぶ
武家政権の軍事支配

武家政治と近代日本の国家主義

(戦前の)日本において、国家主義的かつ権威主義的な反動が起こったことの裏には、当然ながら数世紀にわたって形成された日本人のある特質があった：：幾百年もの武家政治の下にあった日本人は、軍国主義者の主導権主張を唯々としてうけいれ：：むしろもう一度天下り権威のもとで感情的な安住を得たい、とさえ考えていた。

ライシャワー『日本——過去、現在』

(時事通信社、一九六七)



ハーバード大学の日本研究者で駐日大使も務めたライシャワー (Edwin Reischauer, 1910~90)

第二節

出版のはじまり

写本の時代から刊本の時代へ

凡欲讀經先念淨口業直心
循唎 循唎 摩 循唎 娑婆訶
奉請除災金剛 奉請白淨金剛 奉請紫賢金剛 奉請般若波羅密經
奉請寶金剛 奉請黃隨求金剛 奉請定除厄金剛
金剛般若波羅密經

如是我聞一時佛在舍衛國祇樹給孤獨園與大
比丘衆千二百五十人俱尔時世尊食時著衣持
鉢入舍衛大城乞食於其城中次第乞已還至本處
飯食訖收衣鉢洗足已敷座而坐時長老須菩提在大
衆中即從坐起偏袒右肩右膝著地合掌恭敬而
白佛言世尊如來善哉善哉諸善男子諸善女人

印刷術の誕生と書籍出版の開始

武人の支配の下、門閥貴族に代わって政治の実権を握ったのは、科挙出身の文人官僚たちであった。

彼らは家柄や身分に関係のない実力本位の社会を築くため、書籍の普及に努めた。そこで利用されたのが、中国の四大発明の一つ印刷術である。

印刷術の誕生時期については諸説があるが、遅くとも九世紀には高度な印刷技術が存在したことが、敦煌石窟から発見された唐代の印刷物

（「金剛般若波羅蜜經」八六八年刊）

から明らかになっている。

書籍の出版は、唐代、民間を中心に実用化され、五代十国時代には各地の武人政権の実務を支えた文人官僚の要望により、国家事業として儒教経典などの出版事業が始まった。

子曰對曰舉直措諸枉

枉者諸宜則人不暇
措者指也

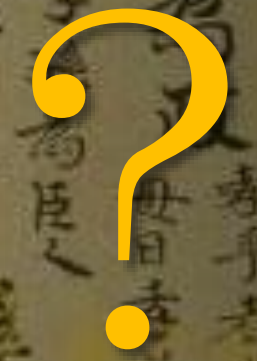
子曰臨之以庄則敬孝慈則中舉直
子日臨之以庄則敬孝慈則中舉直

政是亦為
孝乎者未詳仁既有孝行

信不知其可
大車魚鞅小車

十廿可知
子曰殺回於夏

而祭之者是詢
天日神地日祿日鬼非其祖考而祭之



1969年に新疆のアスターナ古墳で発見された唐代の論語の写本

| | | | |
|--------|--------------------|--------------|------------|
| 1600BC | | | |
| 1500BC | | | |
| 1400BC | 殷 1600BC頃-1046BC | | |
| 1300BC | | | |
| 1200BC | | | |
| 1100BC | | | |
| 1000BC | | | |
| 900BC | 周 1046BC-771BC | | |
| 800BC | | | |
| 700BC | | | |
| 600BC | 春秋戦国時代 770BC-221BC | | |
| 500BC | | | |
| 400BC | | | |
| 300BC | | | |
| 200BC | 秦 221BC-207BC | | |
| 100BC | | | |
| 0 | 漢 206BC-220AD | | |
| 100 | | | |
| 200 | 魏 220-265 | 蜀 221-263 | 呉 222-280 |
| 300 | 晋 265-316 | | |
| 400 | 五胡十六国時代 | | 東晋 317-420 |
| 500 | 北朝 439-589 | 南朝 420-589 ● | |
| 600 | 隋 581-619 | | |
| 700 | | | |
| 800 | 唐 618-907 | | |
| 900 | | | |
| 1000 | 五代十国 907-960 | | |
| 1100 | 遼 | 北宋 960-1127 | |
| 1200 | 金 1115-1234 | 南宋 1127-1279 | |
| 1300 | 元 1271-1368 | | |
| 1400 | | | |
| 1500 | 明 1368-1644 | | |
| 1600 | | | |
| 1700 | | | |
| 1800 | 清 1616-1912 | | |
| 1900 | 中華民国 1912-1949 | | |
| 2000 | 中華人民共和国 1949- | | |

梁の袁峻

写本の時代

袁峻^①、字は孝高。陳郡陽夏の人である。(中略)峻は早くに両親を亡くしたが、志は篤く、学問を好んだ。家が貧しく書物がなかつたため、いつも人から借りて写すのを日課としていた。毎日五十枚ずつ、所定の枚数を満たすまでけつして休むことはなかつた。

監初以臨川王妃弟故自征虜梁書卷四九中袁峻伝累遷尚書庫部侍郎丹陽尹丞太子太傅丞尚書殿中

【注釈】

^①袁峻・南朝梁の武帝に仕えた文官
侍講壽光殿自高祖即位引後進文學之士苞及從兄

孝綽從弟孺同郡到漑漑弟洽從弟沆吳郡陸倕張率並以文藻見知多預讌坐雖仕進有前後其賞賜不殊天監十年卒時年三十臨終呼友人南陽劉之遴託以喪事務從儉率苞居官有能名性和而直與人交面折其非退稱其美情無所隱士友咸以此歎惜之

袁峻字孝高陳郡陽夏人魏郎中令渙之八世孫也峻早孤篤志好學家貧無書每從人假借必皆抄寫自課日五十紙紙數不登則不休息訥言語工文辭義師剋京邑鄱陽王恢東鎮破岡峻隨王知管記事天監初鄱陽國建以峻爲侍郎從鎮京口王遷郢州兼都曹參軍

子曰對曰舉直措諸枉

枉者諸直則人不暇措者之上位季康子敏使人敬中以勸

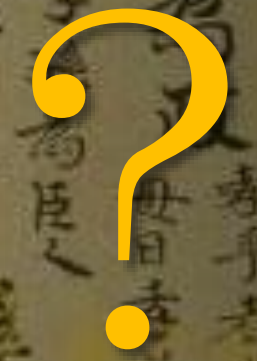
子曰臨之以庄則敬孝慈則中舉直

子曰書云孝乎惟孝

信不知其可不知其可者言其不可行大車無輓小車

行之哉大車百石小車羊車輓家轉十世可知大謂易姓之世問其制度變也子曰殺國於夏

而祭之者是詢自用之後雖百世制度由可知以為意雖百大可知易損益之極於三王亦不是過天日神地日祿日鬼非其祖考而祭之



1969年に新疆のアスターナ古墳で発見された唐代の論語の写本

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代
770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 蜀 221-263 吳 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代 東晋 317-420

北朝 439-589 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 北宋 960-1127

金 1115-1234 南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民國 1912-1949

中華人民共和國 1949-

印刷術の誕生

三蔵法師が百万枚の普賢菩薩像を印刷

大慈恩寺三藏法師傳卷第三

沙門惠立本

釋彦棕箋

起阿踰陀國終伴爛拏國

自此東南行六百餘里渡琺伽河南至阿踰陀

國中平度寺百餘所僧徒數千人大小乘兼學大

城中有故伽藍是伐菴股度菩薩唐言世親舊曰

天親於此制大小乘論及為衆講聚城西北四

五里臨琺伽河岸大伽藍中有窣堵波高二百

餘尺元慶王所造作音三所說法處其旁又有

大慈恩寺三藏法師傳

(唐)沙門惠立本・釈彦棕箋

〔解説〕

『西遊記』で知られる唐代の僧・

玄奘(六〇二〜六六四)の事跡を記した

記録に『大慈恩寺三藏法師傳』があ

る。弟子の慧立(えりゆう)と孫弟子の

彦棕が著したもの。全十巻。

前半五巻は、玄奘の十数年におよ

ぶ天竺(インド)への求法巡礼行記で、

後半五巻は帰国後、請来した經典の

漢訳に半生をかけた行状記。
日本の興福寺に一〇七一年の写本
が伝わっている。



玄奘三蔵像(鎌倉時代 東京国立博物館蔵)

仏教の普及と印刷術の発展

大帝①は(玄奘)法師が先朝に重んじられていたため、即位後、ますます敬った。……(玄奘法師は)十俱胝②すなわち百萬の像を造ることを発願し、それを成し遂げた。

(唐)沙門惠立本釈彦悰箋

『大慈恩寺三蔵法師伝』卷十

【注釈】

- ①唐の第三代皇帝・高宗。
- ②俱胝、梵語 क्लृप्तिの音訳。諸説があるが、ここでは十万の意。



か？
玄奘法師は、何を百万作ったの

玄奘三蔵像(鎌倉時代 東京国立博物館蔵)

(北宋)紙本版画普賢菩薩騎象像(清涼寺藏・国宝)



玄奘が印刷した普賢菩薩像

玄奘は回鋒紙に普賢象を印刷し、各地の衆生に施した。毎年、五駄も用意したが余ることはなかった。

(五代)馮贄『雲仙雜記』卷五所引『僧円逸録』

右図は、国宝「紙本版画普賢菩薩騎象像」。平安時代の僧・裔然(ちようねん、九三八〜一〇一六)が、北宋から請来した京都・清涼寺の釈迦如来立像の中から、一九五四年に発見された。

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 蜀 221-263 吳 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代

東晋 317-420

北朝 439-589

南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼

北宋 960-1127

金 1115-1234

南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912


中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-



玄奘が印刷したという普賢菩薩像
はいまは伝わっていないが、唐代に
印刷された仏教関連の印刷物はいま
も東アジア各地に現存している。
では、現存する印刷物で最古のも
のは、どこにあるのか？

①中国が主張する世界最古の印刷物



1974年、西安市西郊の唐代の墳墓で
梵文陀羅尼咒の印刷物が発見される

梵文陀羅尼咒(ボンブングラニジュ)

一九七四年、西安市西郊の唐代の墳墓からサンスクリット語で書かれた陀羅尼(呪文)の印刷物が発見された。

「吳徳(冥)福」の四字が墨書されていて、るところから、被葬者は吳徳という人物であることがわかる。

同時に出土した腕輪や銅鏡、印刷に使われた紙の特徴から、中国の考古学会はこれを唐代初期のものとして推定し、現存する世界最古の印刷物としている。



②韓国が主張する世界最古の印刷物

1966年、韓国慶州にある仏国寺釈迦塔から
無垢浄光大陀羅尼経の印刷物が発見された



慶州仏国寺の無垢浄光大陀羅尼経

一九六六、
迦塔から木
発見された

唐でこの
のが七〇一
が建立され
(七五一年)
究者はこれ
物と主張し

延摩醯首羅及天
龍八部等咸礼佛足
同聲白言我等已
蒙世尊加護福此
呪法及造塔法咸以日
守衛住持讀誦書寫
供養為護一切諸衆生
故於後時令彼衆
生悉得聞知不墮地
獄及諸惡趣我等為
報如來大恩咸共守護
令廣流通尊重恭敬
如佛无異不令此法而
有壞滅佛言善哉
善哉汝等乃能堅
固守護住持如是陀
羅尼法時諸大衆聞
佛說已歡喜奉行
無垢浄光大陀羅尼経

仏国寺の釈
陀羅尼経が

翻訳された
この釈迦塔
徳王一〇年
韓国の研
最古の印刷

無垢浄光大陀羅尼経の東伝

トハラ
(Tukhara)

慶州仏国寺で釈迦塔が
建立される(751年)

唐

則天武后が法蔵とトハラからの渡来僧・弥陀山
に無垢浄光大陀羅尼経を重訳させる(701年)



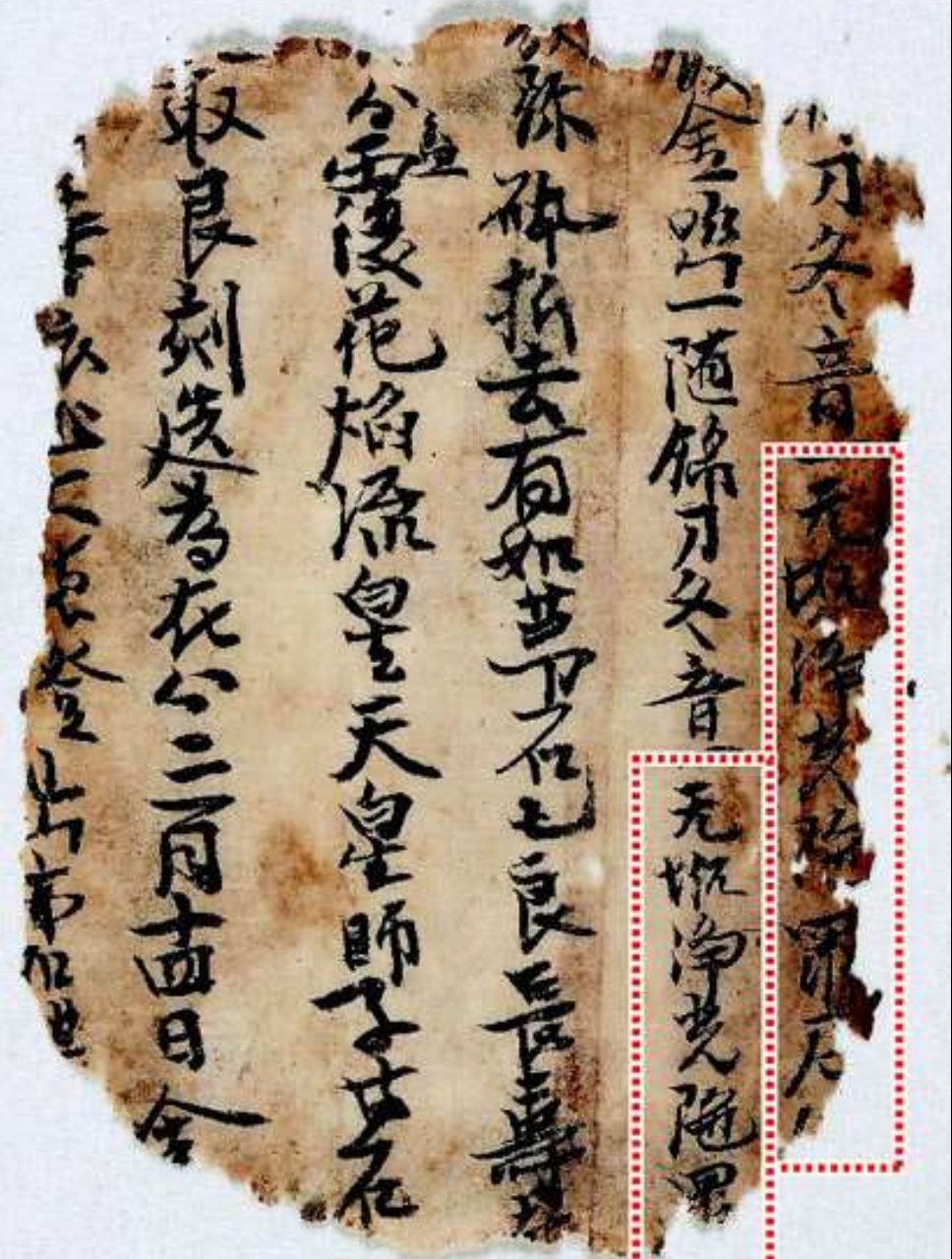
資料映像：韓国観光公社「仏国寺と石窟庵」より

墨書紙片が投げかけた疑惑

慶州仏国寺の釈迦塔からは、無垢浄光大陀羅尼經のほかにも、一つの紙塊が発見されていた。

墨書紙片と呼ばれるこの紙塊を解読した結果、釈迦塔は新羅の景德王の十年（七五一）に建立された後、高麗の太平四年（一〇二四）に一度改修され、その際に無垢浄光大陀羅尼經二種が納められたことがわかった。

これをスクープした新聞記者は、当時の心情を次のように語っている。



墨書紙片から発見された釈迦塔重修記

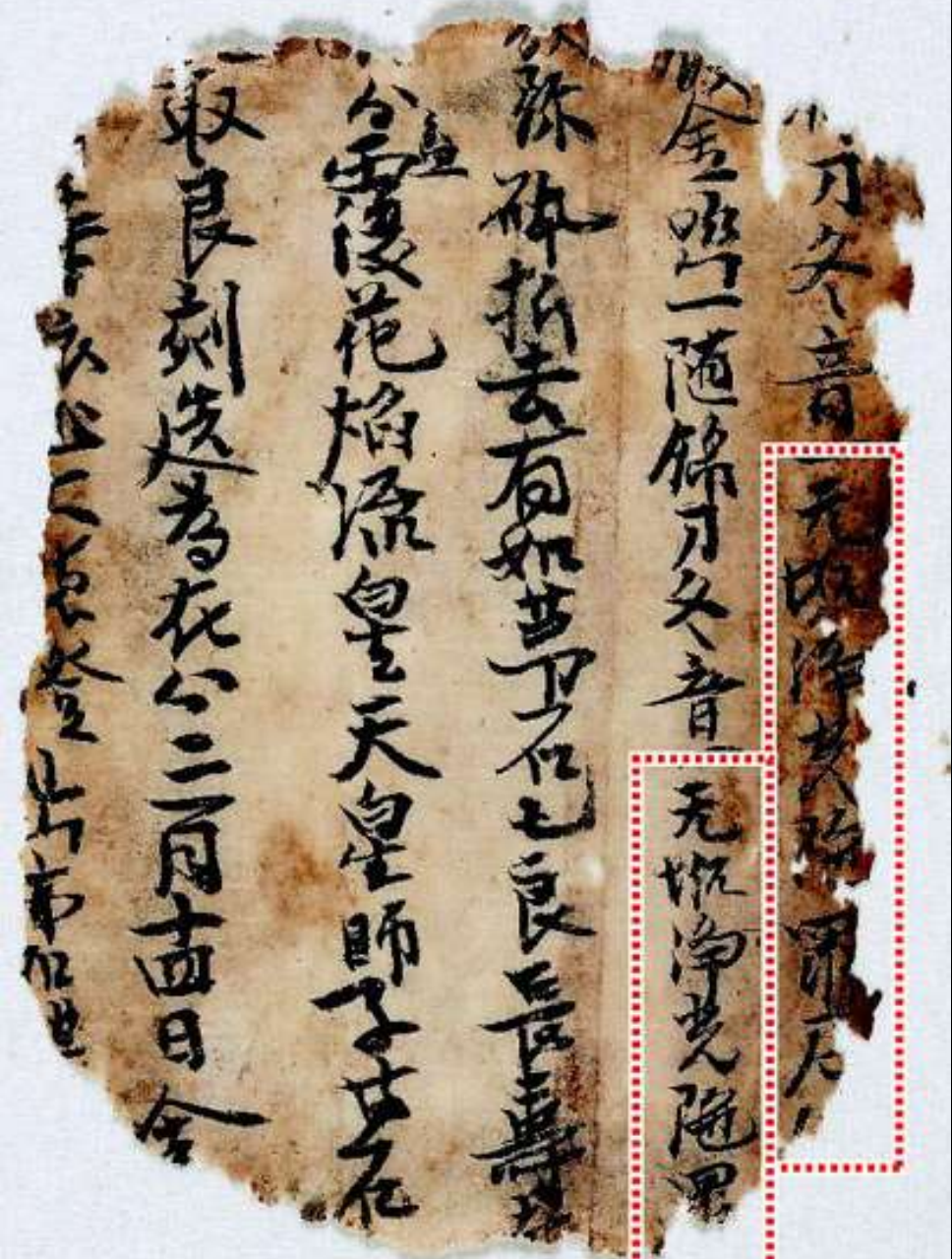
墨書紙片が投げかけた疑惑

（墨書紙片から見つかった）一〇二四年に記録された「釈迦塔重修記（修復記録）」に「無垢浄光大陀羅尼経を収めた」との記述があることを知ったのは、半月ほど前のことだ。その話はある文化財に関する専門家から知らされた。その専門家は「残念なことだが、事実上事実として明らかにするしかないだろう」と語った。

慎亨浚 「世界最古とされてきた

無垢陀羅尼経の真実」

（朝鮮日報二〇〇七年三月一二日）



墨書紙片から発見された釈迦塔重修記

墨書紙片が投げかけた疑惑

何日か悩んだ揚げ句、小学校の教科書で習った「ペンの力」という話を思い返しながら、取材を開始した。

その話とは、第一次世界大戦下の英国で、新聞社の中で唯一「デーリーメール」紙だけが、「戦況は英国に不利だ」という事実を何度も報道したという逸話だ。これには「敵を利するもの」という非難が殺到した。だが前線から帰還した負傷兵を通じて「実際の戦況」が明らかになり、英国政府は兵器改善などを急ぎ、その結果連合軍は勝利した。

戦争が終わった後、ドイツ皇帝のヴィルヘルム二世は「わたしはデーリー・メールという新聞のせいで負けた」と語った。

慎亨浚 「世界最古とされてきた

無垢陀羅尼経の真実」

(朝鮮日報二〇〇七年三月一二日)



慎亨浚記者



あなたがもし記者だったら、自分の国が世界最古のものと誇る国宝に、疑惑をはさむような報道をするか。

③日本が主張する世界最古の印刷物

唐

法隆寺に現存する
百万塔陀羅尼
(764-770年)

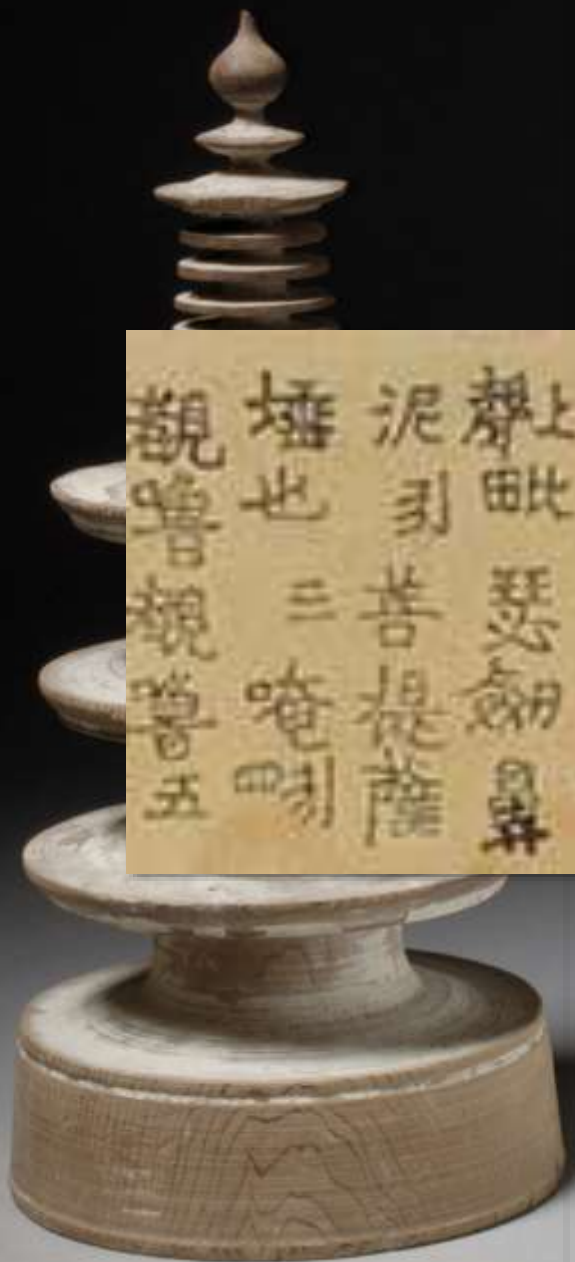


法隆寺に伝わる百万塔陀羅尼

『続日本紀』によれば、奈良時代の
 女帝・称徳
 平定後、上
 六年近くの
 塔・百万其
 した無垢淨
 大寺に分置
 法隆寺に
 垢淨光大院
 されていて

無垢淨光經
 自心印施羅尼
 南護法加伐
 帝細婆納伐
 底喃一三蘇
 三佛陀俱嚴
 那度多設多
 索訶薩囉列
 喃二南護薩
 婆伽伐羅拏
 上毗瑟劍鼻
 聲引菩提薩
 埵也三唵唎
 觀魯觀魯五

奈良時代の
 勝の乱の
 ○年まで
 三重小
 中に印刷
 納めて十
 小塔と無
 千基保存



制作年が明らかかな最古の印刷物

戊午^①、初め(称徳)天皇、八年の乱
②平ぎて乃ち弘願(ぐがん)を発して三
重小塔一百万基を造らしむ。高さ各
四寸五分。その径三寸五分。露盤の
下に各根本・慈心・相輪・六度等の
陀羅尼を置く。ここに至りて功畢り
て諸寺に分置す。

続日本紀卷三十

【注釈】

①神護景雲四年、宝亀元年(七七〇年)四月二十六日

②天平宝字八年(七六四年)に惠美押勝(藤原仲麻呂)が
起こした反乱

姓○巳酉授無位紀朝臣豊賣從五位下○壬
子授正八位上道公張弓從五位下以貢獻也
○戊午初 天皇八年乱平乃發弘願入造三
重小塔一百万基高各四寸五分基三寸五
分露盤之下各置根本慈心相輪六度等陀羅
尼至是功畢分置諸寺賜供事官人巳下仕下
巳上一百五十七人爵各有差○五月乙丑始
聽諸國國師乘驛朝集○庚午以從五位下田
上王爲縫殿頭從五位下真立王爲造酒正從
五位下笠朝臣乙麻呂爲伊豆守從五位上大
伴宿祢駿河麻呂爲出雲守正五位上大伴宿





IWASE BUNKO LIBRARY
西尾市岩瀬文庫

library 001

百万塔/無垢淨光經自心印陀羅尼

資料映像：岩瀬文庫「百万塔陀羅尼」より

無垢浄光大陀羅尼経の東伝

トハラ
(Tukhara)

慶州仏国寺で発見の
無垢浄光大陀羅尼経
(751年?)

唐

則天武后が法蔵とトハラからの渡来僧・弥陀山
に無垢浄光大陀羅尼経を重訳させる(701年)

称徳天皇が恵美押勝の乱の鎮定後、
無垢浄光大陀羅尼経を百万部を印刷(764-770年)





唐

印刷された年が明記された最
古の印刷物は？

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265

蜀 221-263

呉 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代

東晋 317-420

北朝 439-589

南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼

北宋 960-1127

金 1115-1234

南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

印刷術の誕生

金剛般若波羅蜜經(868年、刊行年を明記)

1900年、敦煌石窟(莫高窟)から木版の
金剛般若波羅蜜経が発見される





敦煌莫高窟第17窟(藏經洞)前に置かれた敦煌文書

金剛般若波羅蜜經

龜茲国出身の鳩摩羅什が五胡十六

金剛般若波羅蜜經

釈迦(ブツダ)と十大弟子の一人・

須菩提(スブーテイ)の問答のようすが

克明に描かれている。



長老須菩提

鉢入舎衛大城之食持其城中次第之已還至本處
 飯食訖收鉢洗足已敷座而坐時長老須菩提在大
 衆中即從坐起偏袒右肩右膝著地合掌恭敬而
 白佛言希有世尊如來善護念諸菩薩善付囑諸
 菩薩世尊善男子善女人發阿耨多羅三藐三菩

阿耨多羅三藐三菩提心者於一切法應如是
金剛般若波羅蜜經の刊行年代

須敦煌本『金剛般若波羅蜜經』の卷末には「咸通九年四月十五日、王玠が両親のために謹んで造り寄進した」という刊記があり、咸通九年（八六八）に刊行されたことがわかる。年月日が明記された印刷物としては世界最古のもの。

敦煌石窟から発見された後、スラインによって英国に持ち出され、現在は大英図書館に所蔵されている。

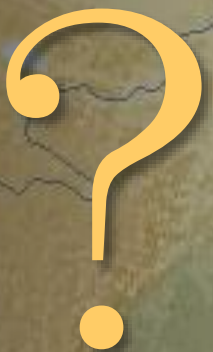
伊哩帝 伊失哩 式囉馱 毗舍耶 毗舍耶 娑婆訶

咸通九年四月十五日王玠為 二親敬造普施

齋 啓 不 審 近 日

尊 體 何 似 伏 唯 倍 加

重 下 情 禱 望 謹 狀



唐代に誕生した印刷術を応用した
書籍の出版は、いつごろ始まったの
か？

日本の留学僧が見た初期の出版物

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 蜀 221-263 吳 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代 東晋 317-420

北朝 439-589 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 北宋 960-1127

金 1115-1234 南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644


清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

印刷術の誕生

唐の咸通六年(865年)、日本留学僧が長安で刊本を書写



日本の留学僧が唐の都長安で唐韻、玉篇の版本を書写(865年)

日本の僧が見た初期の印刷物

西川印子『唐韻』一部五卷

同印子『玉篇』一部三十卷

右の雑書は、仏教の要籍ではないが、大唐の咸通六年(八六五)六月から十月まで、長安城右街の西明寺で、日本留学僧円載法師が書写した雑書の目録は右のとおり。

新書写請来法門等目録①卷一

【注釈】

①平安初期の僧・宗叡(しゅうえい)が入唐した際(八六二〜八六五年)に請来した密教典籍などの目録

民間での書籍出版の始まり

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 蜀 221-263 吳 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代 東晋 317-420

北朝 439-589 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 北宋 960-1127

金 1115-1234 南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

印刷術の誕生

日本留学僧が長安で刊本を書写(865年)

四川の民間で実用書が出版される(883年)



唐

四川省成都で占いや字典、手習いなどの実用書が出版される(883年)

民間での書籍出版のはじまり

〔解説〕

唐代の末、黄巢が率いる反乱軍が都・長安に侵攻。僖宗とその家臣たちは八八一年、蜀(四川省)に逃れた。僖宗とともに蜀に逃れた柳玘(ひん)は、当時この地で占いや字典、手習いなどの実用書が出版されていたことを記している。

八各部隨帙刻印板廣頌天下如諸色人要寫經書並請依所印刻本不得更使雜本交錯 愛日齋叢鈔云通鑑載後唐長興三年二月辛未初令國子監校定九經雕印賣之又曰自唐末以來所在學校廢絕蜀毋昭裔出私財百萬營學館且請板刻九經蜀主從之由是蜀中文學復盛又曰唐明宗之世宰相馮道李愚請令判國子監田敏校定九經刻板印賣從之後周廣順三年六月丁巳板成獻之由是雖亂世九經傳布甚廣王仲言揮塵錄云毋昭裔貧賤時嘗借文選于交遊間其人有難色發憤異日若貴當板以鏤之遺學者後仕王蜀爲宰相遂踐其言刊之印行書籍創見于此事載陶岳五代史補後唐平蜀明宗命太學博士李鏐書五經仿其製作刊板于國子監爲監中刻書之始 猗覺寮雜記云雕印文字唐以前無之唐末益州始有墨板後唐方鏤九經悉收人間所有經史以鏤板爲正見兩朝國史此則印書已始自唐末矣案柳氏家訓序中和三年癸卯夏鑿興在蜀之三年也余爲中書舍人旬休閱書于重城之東南其書多陰陽雜記占夢相宅九宮五緯之流又有字書小學率雕板印紙浸染不可盡曉葉氏燕語正以此證刻書不始于馮道而沈存中有謂板印書籍唐人尚未盛行爲之自馮瀛王始印五經自後典籍皆爲板本大槩唐末漸有印書特未盛行後人遂以爲始于蜀也當五季亂離之際經籍方有託而流布于四方天之不絕斯文信矣 甲戌靈武

民間での書籍の印刷と出版

中和三年(西曆八八三年)夏、陛下が

蜀に移られて三年目のことである。

当時、中書舎人の職にあった私は、十日に一度の休みを利用して、重城の東南に本を見にいった。

本の多くは陰陽雜記、占夢、相宅、九宮五緯の類で、ほかに字書や手習いの本もあった。どれも木版で刷られたが、墨がにじみ、よく判読できなかつた。

旧五代史卷四十三所引(唐)柳玘「柳氏家訓序」

国家事業としての書籍出版の始まり

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 蜀 221-263 吳 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代 東晋 317-420

北朝 439-589 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 北宋 960-1127

金 1115-1234 南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

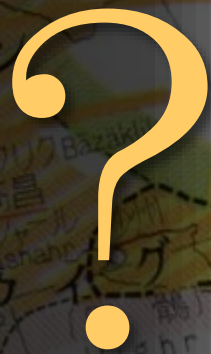
印刷術の誕生

日本留学僧が長安で刊本を書写(865年)

民間で実用書の出版始まる(883年)

国家事業として儒教經典の出版始まる(932~53年)

なぜ武人と呼ばれる軍閥が支配した五代十国時代に、国家事業として儒教経典などの出版が行われたのか？



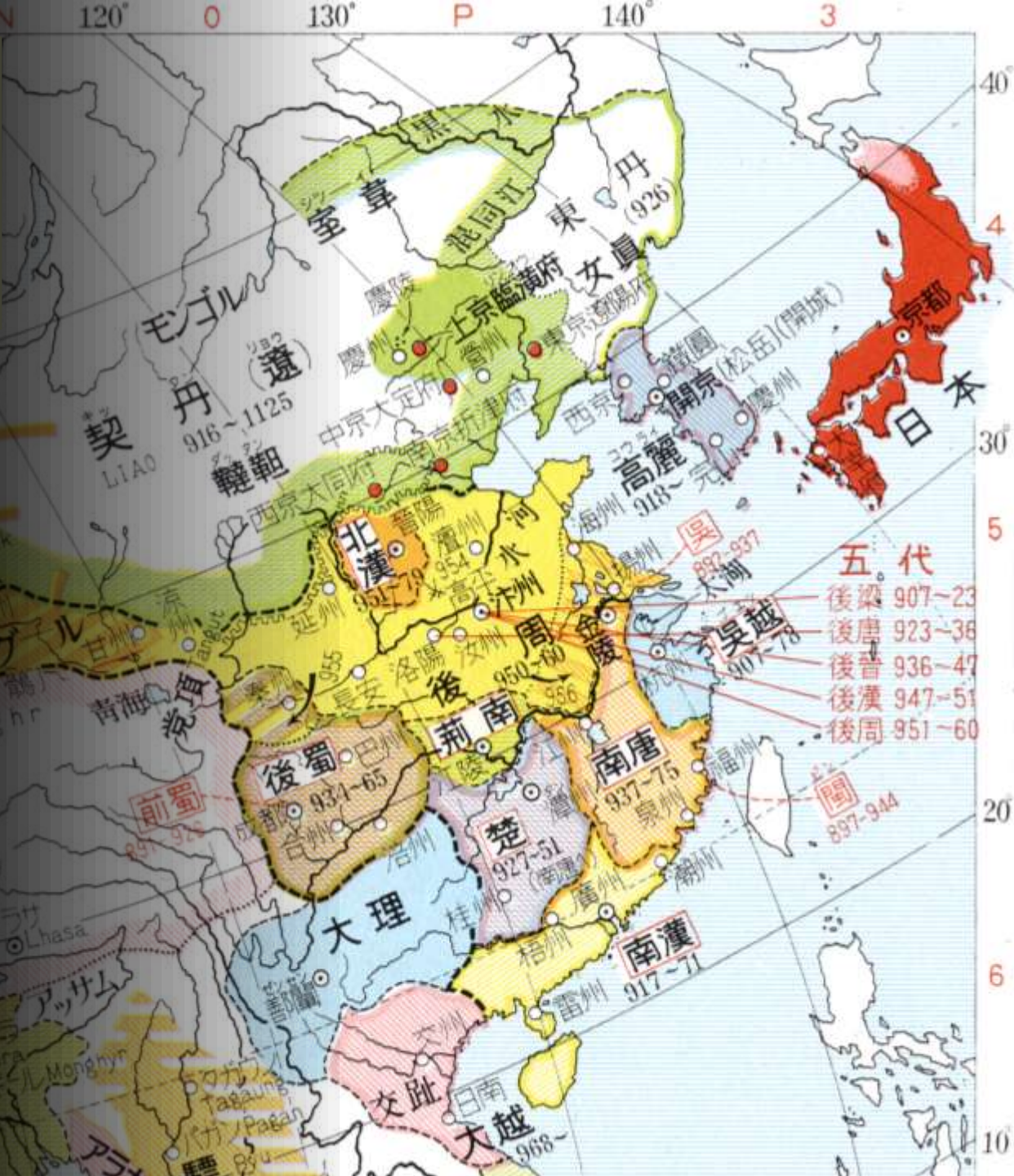
実力本位の平等な社会を求めて

〔解説〕

唐王朝が滅亡した後、中国各地には武人と呼ばれる武装集団が割拠していた。この武人たちによって旧来の門閥貴族が一掃された後、新たな政治の担い手となったのが、科挙出身の文人官僚たちであった。

受験競争を勝ち抜いた文人官僚たちは、実力本位の平等な社会を守るため、儒教経典などの書籍を出版し、教育の普及に努めた。





地方政權(後蜀)の出版事業

蜀の地は唐末以来、学校が荒廃していた。母昭裔①は私財を投げうって学校を再建するとともに、後蜀の後主②に願い出て**九経**を出版した。

十国春秋・母昭裔②伝

【解説】

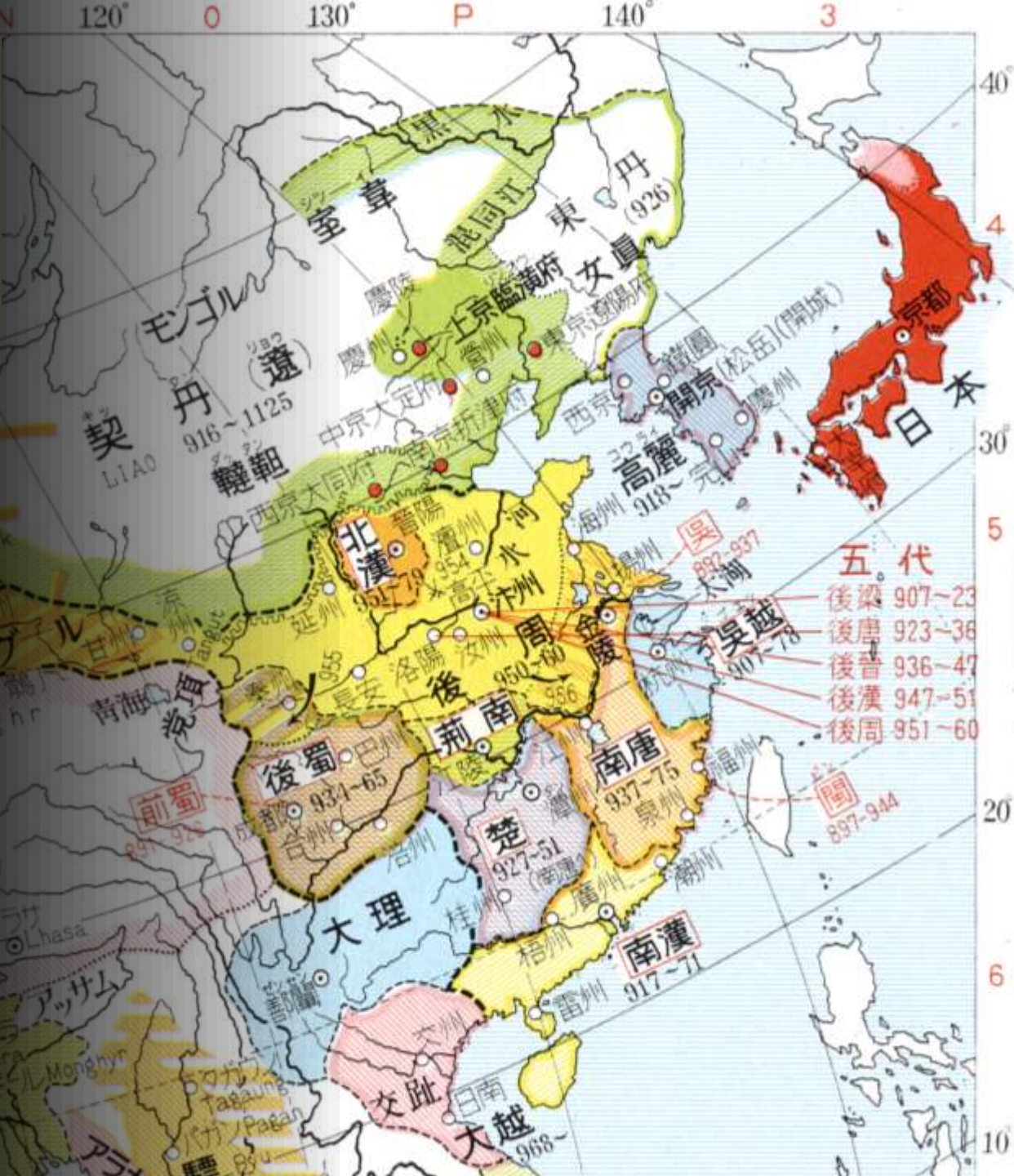
①母昭裔(ぶしょうえい)は、河中竜門(現在の山西河津県)の人。生没年不詳。五代十国時代の後蜀に仕えた文人官僚。

②後蜀の第二代皇帝・孟昶(ちよう九一九〜六五)

母丘儉(昭裔)は、貧しかったころ、友人から『文選』を借りようとして、嫌な顔をされたことがあった。母はこれに発奮し、「いつか富貴の身に与えよう」と誓った。その後、後蜀に仕えて宰相になると、誓いのおりこれを出版した。

(宋)王明清『揮塵余話』卷二所引五代史補

地方政権(後蜀)の出版事業



中原王朝の出版事業

後唐の長興三年(西暦九三二年)二月、中書門下①は石経文字により九経の版木を作るよう上奏した。

明宗②は国子監に詔を下し、博士や学生を集めて長安の石経から各々が専門とする経書を筆写し、仔細に校閲した後、版木職人を雇って各部帙ごとに印刷し、広く天下に頒布するよう命じた。また一般の者が経書を写す時にもこの勅印本に従い、他の雑本と混ぜてはならないと命じた。

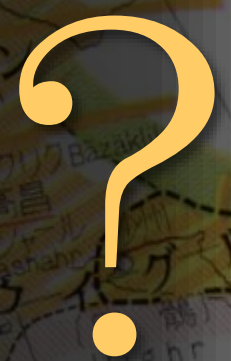
五代会要卷八 経籍

【注釈】

- ①宰相の馮道と李愚を指す
- ②突厥沙陀部族出身の第二代皇帝・李嗣源



儒教経典が国家事業として出版される以前、定本となるテキストはどのようにして公布されていたのか？



儒教經典の定本・石經

漢代に儒教が国教化されると、歴代王朝は儒教經典の定本を刻んだ石經を建立した。

後漢の熹平石經(洛陽)、魏の正始石經(洛陽)、唐の開成石經(長安)、五代後蜀の蜀石經(成都)、北宋の嘉祐石經(開封)、南宋の紹興石經(杭州)、清の乾隆石經(北京)などがある。



(唐)開成石經(西安碑林博物館蔵)

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

| | | |
|--------------------|--------------|------------|
| 殷 1600BC頃-1046BC | | |
| 周 1046BC-771BC | | |
| 春秋戦国時代 770BC-221BC | | |
| 秦 221BC-207BC | | |
| 漢 206BC-220AD | | |
| 魏 220-265 | 蜀 221-263 | 呉 222-280 |
| 晋 265-316 | | |
| 五胡十六国時代 | | 東晋 317-420 |
| 北朝 439-589 | | 南朝 420-589 |
| 隋 581-619 | | |
| 唐 618-907 | | |
| 五代十国 907-960 | | |
| 遼 | 北宋 960-1127 | |
| 金 1115-1234 | 南宋 1127-1279 | |
| 元 1271-1368 | | |
| 明 1368-1644 | | |
| 清 1616-1912 | | |
| 中華民国 1912-1949 | | |
| 中華人民共和國 1949- | | |



五代十国時代が実現した「唐宋変革」 (907-960)

唐代以前—門閥貴族が政治の実権を握る

五代十国時代—門閥貴族が没落し文人官僚が実権掌握

宋代以降—皇帝の独裁体制が確立

活字印刷の発明

〔解説〕

五代十国時代に本格化した雕版印刷(版木を使った印刷)に続き、北宋時代の十一世紀半ばには、活版印刷(活字を使った印刷)も発明された。

ドイツのグーテンベルクが金属活字を使って四十二行聖書を印刷したのは、十五世紀半ば。それよりも四百年も前のことであつた。



民間での書籍出版の始まり

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 蜀 221-263 吳 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代 東晋 317-420

北朝 439-589 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 北宋 960-1127

金 1115-1234 南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和国 1949-

印刷術の誕生

日本留学僧が長安で刊本を書写(865年)

民間で実用書の出版始まる(883年)

国家事業として儒教經典の出版始まる(932~53年)

畢昇が活字印刷を發明(1041~48年)

活版印刷の發明

書籍の印刷出版は、唐代にはまだ盛んには行われていなかったが、(五代十国時代の)馮道が始めて(儒教經典の)五經を印刷して以来、書籍はみな版本となった。

(北宋時代の)慶曆年間(一〇四一〜四八年)には、民間の畢昇という人物が活版印刷を行つた。小異如奕棋古局

用十七道合二百八十九道

(宋)沈括『夢溪筆談』卷十八技芸

亦與後世法不同
算術多門如求一上驅搭因重因之類皆不離乘除唯增成一法稍異其術都不用乘除但補虧就盈而已假如欲九除者增一便是八除者增二便是但一位一因之若位數少則頗簡捷位

數多則愈不若乘除之有常然算術不思學見簡卽用見繁卽變不膠一法乃爲通術也

板印書籍唐人尚未盛爲之自馮瀛王始印五經

已後典籍皆爲板本慶曆中有布衣畢昇又爲

活板其法用膠泥刻字薄如錢唇每字爲一印

火燒令堅先設一鐵板其上以松脂臘和紙灰

之類冒之欲印則以一鐵範置鐵板上乃密布

字印滿鐵範爲一板持就火煬之藥稍鎔則以

一平板按其面則字平如砥若止印三二本未



東アジアで誕生した印刷術と
書籍出版は、いつごろヨーロッパ
に伝わったのか？

中世最大の百科事典を編纂したドミニコ会士
ヴァンサン・ド・ボーヴェ(Vincent de Beauvais)
(c. 1190-1264)

印刷術と書籍出版の伝播

ドイツでグーテンベルクが
四十二行聖書を活版印刷
(1455年)

新羅の都・慶州の仏国寺に釈迦塔
が建立され、無垢浄光大陀羅尼經
の木版本を奉納(704~51年)

仏教のため印刷術が誕生(7世紀)
国家事業として書籍出版(10世紀)
活字印刷が発明される(11世紀)

ヨーロッパで宗教版画が
木版印刷される
(14~15世紀)

称徳天皇が無垢浄光大陀羅尼經を
百万枚印刷させ、木製の小塔に納
めて十大寺に分置(764年~70年)

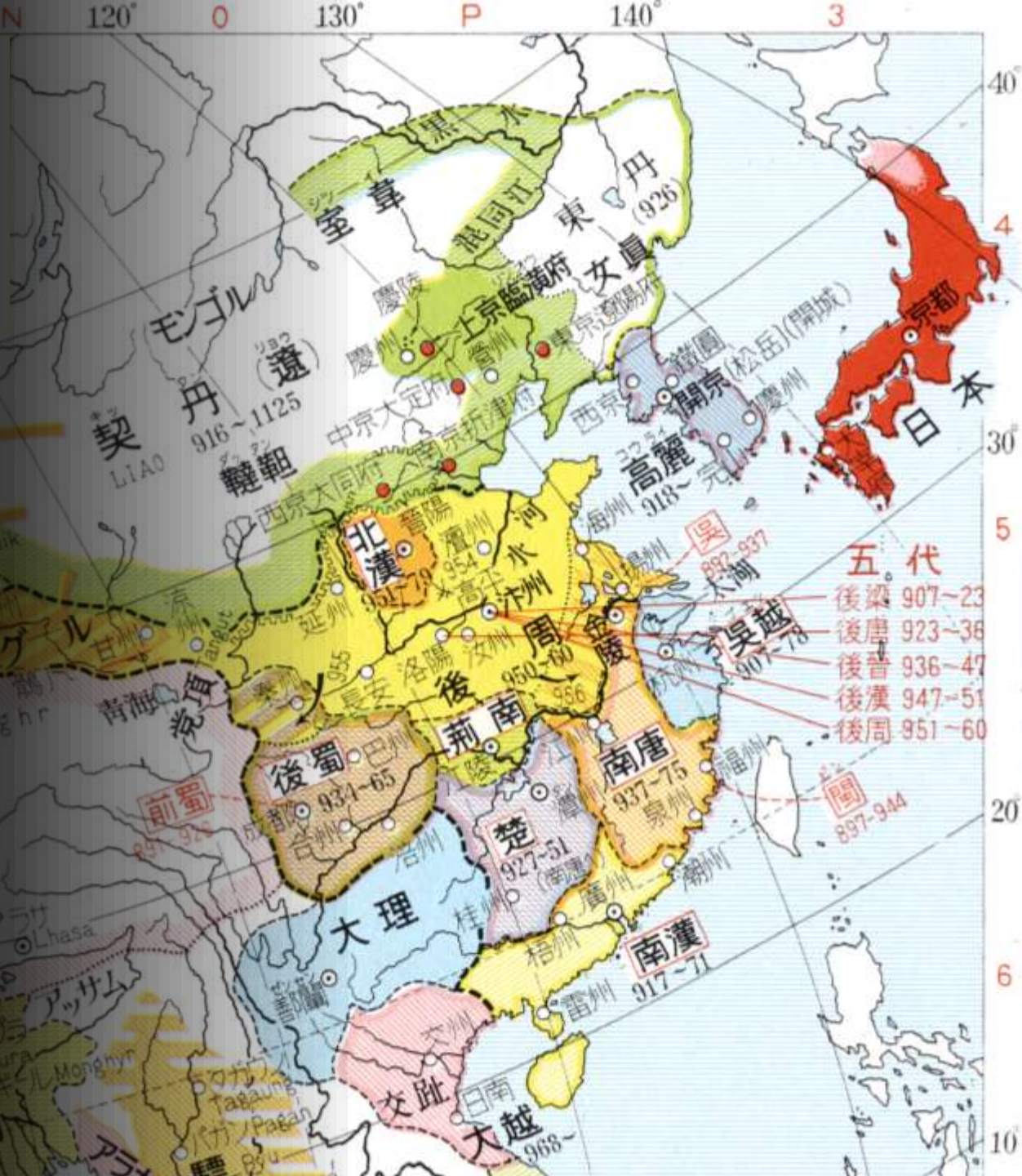


第三節

詞の隆盛

南唐の後主・李煜

芸術と文房四宝を育成した国主
〔解説〕
五代十国時代、金陵(現・南京)に都を置いた南唐は、豊かな江南の地を支配し、十国中第一の富強を誇った。九六一年、二四歳で南唐の第三代国主(後主)となった李煜(九三七〜九七八)は、庶民の間に芽生えた芸術を保護育成し、文房四宝と呼ばれる墨、硯、紙、筆の生産を発展させた。



CCTV 高清

故宮至寶 7

資料映像：NHKスペシャル「故宮」より

貴族文化から庶民文化へ

〔解説〕

唐末から五代十国時代にかけての武人支配の中で、中国の文化は大きな転機を迎える。没落した貴族にかわり、庶民が新たな文化の担い手となったのである。

文学の世界では、従来の格式ばった詩に代わり、庶民の間に生まれた詞と呼ばれる俗謡が流行した。

父・李璟(りけい)とともに南唐二主と呼ばれた李煜は、その悲劇的な生涯を通じて、詞を新たななる芸術へと昇華させていった。



詞とは

〔解説〕

詞は、わが国の都都逸に似た通俗歌謡で、既存の曲に歌詞をつけるところから填詞または曲子詞と呼ばれ、また一句の長さが不揃いになるところから長短句とも呼ばれた。

格式ばった詩とは異なり、感情をよりストレートに表現できるところに特徴がある。

李煜の詞も、当初は男女の色恋を歌ったものがほとんどであった。





和歌(五・七・五・七・七)

白鳥は

かなしからずや

空の青

海のをにも

染まらずただよふ

若山牧水『海の聲』より

都々逸（七・七・七・五）

恋に焦がれて
鳴く蝉よりも
鳴かぬ螢が
身を焦がす

江戸中期の民謡集
『山家鳥虫歌』より

都々逸（七・七・七・五）

打ち明け話が

ぽつりと止んで

あとを引き取る

雨の音





趙幹 江行初雪圖

吳頭楚尾法江流元冥試令在初雲曉皆空寒風打笠江心
 漁舟舟衝凌蒼艤已折髮添白山頭作火醫直經青或見沙鷺
 寫岸佃者有船層沈弄習去望微高之不怪衣食切已若經
 琴冰魚凍蟹入盤陪誰客早膏任軟恣送物不方有如此對之
 令人發做地地檢話修成實物佳未北宋隋清聲查章學
 士舟郎生一時法脈精品評燭照方稿生采五畫時不知何
 陳武慶方能成 乾隆法題

江行初雪圖 卷之二 趙幹



故宮藏

李煜と虞美人の詞

〔解説〕

李煜の詞は、その後、彼を襲った苛酷な運命によって大きく変わっていく。

九七五年、李煜が三八歳の時、南唐は北宋の攻撃を受け、滅亡した。俘虜として北宋の都・汴京（開封）に送られた李煜は、遙か東にある故国を思い、一闋（けつ）の詞を作った。虞美人の詞である。





虞美人

風迴小院庭蕪綠柳眼春相續凭欄半日獨無言依舊
竹聲新月似當年 笙歌未散樽罍在池面水初解燭
明香暗畫樓淡滿鬢清霜殘雪思難禁

詞綜卷二

四

又

春花秋月何時了往事知多少小樓昨夜又東風故國
不堪回首月明中 雕欄玉砌應猶在只是朱顏改問
君能有幾多愁恰似一江春水向東流

臨江仙

櫻桃落盡春歸去蝶翻輕粉雙飛子規啼月小樓西玉
鈎羅幕惆悵暮烟垂 別巷寂寥人散後望殘烟草低
迷爐香閑裊鳳凰兒空持羅帶回首恨依依

蘇子由云
凄凉怨慕

李煜と虞美人の詞

〔解説〕

虞美人は題名ではなく、詞牌と呼ばれる曲名の一つである。

詞はこの既存の詞牌に歌詞をつけるところから填詞または曲子詞と呼ばれ、また旋律に合わせて句の長さが不揃いになるところから長短句とも呼ばれた。

(南唐)李煜

虞美人

春花秋月 何時了

往事知多少

小樓昨夜又東風

故國不堪回首

月明中

雕欄玉砌應猶在

只是朱顏改

問君能有幾多愁

恰似一江春水

向東流

李煜と虞美人の詞

〔解説〕

宋の王銍（おうちつ）の『默記』によれば、李煜が亡国の悲しみを込めて歌ったこの詞は、宋の太宗の逆鱗に触れ、李煜は七月七日の誕生日に毒酒を下賜され、四一年の生涯を閉じたという。

朕令卿往相見可矣鉉遂徑往其居望門下馬但一老卒守門徐言願見太尉卒言有旨不得與人接豈可見也鉉云奉旨來見老卒往報徐入立庭下久之老卒遂取舊椅子相對鉉遙見謂卒曰但正衙一椅足矣頃間李王紗帽道服而出鉉方拜而遽下階引其手以上鉉辭賓主之禮李王曰今日豈有此禮徐

引椅少偏乃敢坐後主相持大笑乃默坐不言忽長吁歎曰當時悔殺了潘佑李平鉉旣去有旨召對詢後主何言鉉不敢隱遂有秦王賜牽機藥之事牽機藥者服之前卻數十回頭足相就如牽機狀也又後主在賜第七夕命故妓作樂聲聞于外太宗聞之大怒又傳小樓昨夜又東風及一江春水向東流之句併坐之遂被禍云

張茂實太尉章聖之子尚宮朱氏所生章聖畏懼劉后凡後宮生皇子公主俱不留以與內侍張景宗令

(南唐)李煜

虞美人

春は花 秋は月 終わりになき世に
過ぎ去りしこと いくばくぞ
小楼は昨夜も又 春風のたつ
故国はふりかえるに堪えず
月明りの中

玉の手摺 石畳 昔のままに
ひとりわが顔(かんばせ)のうつろう
つもる愁いいくばくと 人問わば
さながら春の江の水の
東に流るるよう

まとめ

■唐末から五代十国時代へと続いた武人による支配の中で、門閥貴族は勢力を失い、かわって庶民から身を起こした科挙出身の文人官僚が新たな政治の担い手となった。

■文人官僚たちは、身分や家柄に関係ない実力本位の社会を守るため、唐末に民間で発達した印刷技術を使って知識の普及につとめ、中国はヨーロッパよりも五百年以上も早く、書籍出版の時代を迎えた。

■文学の世界では格式ばった旧来の詩にかわって、庶民の間に生まれた詞が人々の心をとらえた。

参考文献

- 一. T. F. カーター著、藪内清・石橋正子
訳注『中国の印刷術とその発明と西伝』
(平凡社東洋文庫、一九七七年)
- 二. 潘吉星著『中国古代四大発明と源流・外
伝及世界影響』(中国科学技術大学出版社、
二〇〇二年)
- 三. 韓国図書館学研究会編『韓国古印刷史』
(同朋社、一九七八年)
- 四. 日本印刷学会西部支部百万塔陀羅尼研究
班編『百万塔陀羅尼の研究』(八木書店、
一九八七年)
- 五. 中根勝『日本印刷技術史』(八木書店、
一九九九年)
- 六. 倉石武四郎編『中國古典文學大系二〇
宋代詞集』(平凡社、一九七〇年)